

# 伊勢崎シティマラソンが愛される理由

毎年12月の第1日曜日に開催され、今年で11回を数える伊勢崎シティマラソン。ローカルの大会ながら、今年の参加者は定員の2000人に迫る勢いだ。その人気の秘密を探った。



昨年の大会の様子。昨年は1888人の応募があった



## 市町村合併を機に大会を開催年を追うごとに増える参加者

2007年、東京マラソンが開催された年は、第2次ランニングブームが起こったといわれる。「ランブーム」はその後、一過性のものとはならず広く趣味として定着した。東京マラソンより2年前の2005年から開催されていたのが伊勢崎シティマラソンだ。

伊勢崎シティマラソンの前身は「健康マラソン」。佐波郡赤堀町、東村、境町との合併を受け、名称を改め開催されるようになったのです。同大会主管を務める伊勢崎市陸上競技クラブの会長、高野昭二さんは話す。

伊勢崎市は県内でも早くから「スポーツ都市宣言」を掲げている。スポーツを通じた健康な体づくりが元気の市民をつくり、明るいまちづくりにつながるといふ考えからだ。

## 開催当初の参加者は540人ほどだったが、今年は1979人の応募があった。定員は2000人。県外からの参加者も増え、来年にはいよいよ定員を超えるかというところ。女性ランナーも増え、参加者の約2割を超えるという。年代別では40代が420人といちばん多く、30代が363人、50代も254人が参加する。

「この大会のハーフと10kmのコースは、日本陸上競技連盟の公認記録が得られる公認コースです。起伏が少なく平坦で走りやすいので、自分が持つ記録に挑戦したり、実力を試したりするにはちょうど良いのではないのでしょうか」と、参加者が増えている理由を高野さんは分析する。

同クラブ理事長の亀井誠一さんは、「昨年は10周年記念としてバルセロナオリンピックに出場した谷口浩美さんをお迎えしました。また、今年も例年通り、やは

りオリンピック出場経験がある上武大学駅伝部監督の花田勝彦さんと駅伝部の皆さんが参加します。こうした素晴らしい選手と走れるというのも楽しみのひとつだと思います。日本インカレで優勝した長谷川裕介選手が参加したときは、レースの空気が変わりました」と話す。

「大会は多くの地元の人々の力にも支えられています」と高野さん。賞品は地元企業や商店がスポンサーとなって提供。ボランティア団体が給水所に立ち、会場で豚汁をふるまう。無料マッサージをする団体もある。「皆、大会に参加する人にもっと伊勢崎を知ってもらおう、大会を楽しんでもらおうという気持ちで参加しています」

## 健康のため、記録を伸ばすためそして家族共通の趣味として

点を取って競うスポーツとは違うマラソン歴は2年前から。ミニバスケットボールを始めたことがきっかけだそう。「練習は毎日2kmくらい」と言い、今年初めて同大会に参加する。

マラソンに限らず学外社外での趣味活動は良い指導者や仲間との出会いがあり、技術・体力・社会性などを身に付ける機会となるだろう。共通の趣味や話題は円滑なコミュニケーションを生む。いずれは伊勢崎シティマラソンに、親子3代で参加する人が出るかもしれない。

今年の大会は12月6日、日曜日に開催される。街を走り抜ける選手たちに、大会を支える温かい心のひとつとなつてぜひ熱い声援を送ってほしい。



## 主管・伊勢崎市陸上競技クラブ



理事長・亀井誠一さん



会長・高野昭二さん

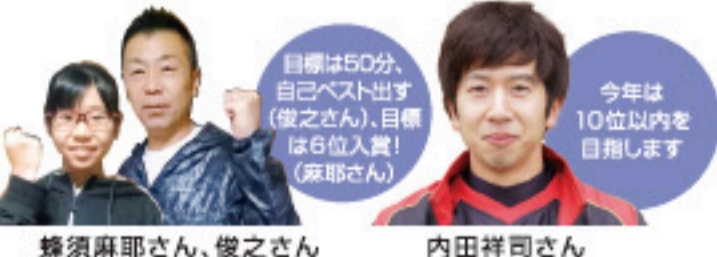
## 今年の大会、楽しんで走ります！



平田晴香さん



多賀谷俊男さん



蜂須麻耶さん、俊之さん



内田祥司さん

**第11回 伊勢崎シティマラソン**

開催日/12月6日(日) 雨天決行  
 会場/伊勢崎市陸上競技場附設コース(スタート・フィニッシュ)  
 主催/伊勢崎市、伊勢崎シティマラソン実行委員会  
 問い合わせ/伊勢崎シティマラソン実行委員会事務局  
 伊勢崎市健康推進部スポーツ振興課内 TEL.0270-27-2747

**写真が動く! 謎アプリAR 使用方法**

① ② ③

① ② ③

④